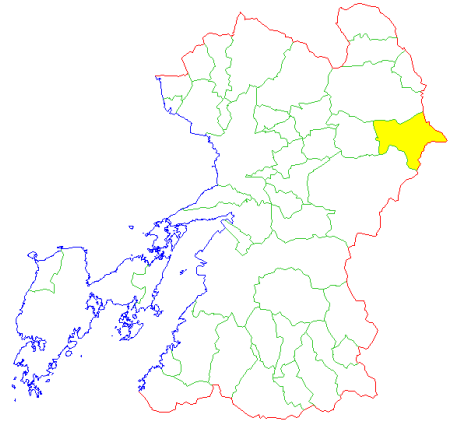


保険者を訪ねて

高森町

特定健診受診率の目標達成と 糖尿病等重症化予防に 課を挙げて取り組んでいます



《高森町の概要》

人 口	6,547人	
国保被保険者数	2,185人	
一般	2,156人	
退職	29人	
後期高齢者数	1,448人	
世 帯 数	2,887世帯	
国保世帯数	1,240世帯	
医療機関等数	医科	4機関
	歯科	2機関
	調剤薬局	6薬局

担 当 課	健康推進課	
	職員	非常勤職員等
健康推進係	6人	2人
国民健康保険係	3人	1人
介護保険係	2人	4人

(平成 29 年 12 月末現在)

【見どころ】高森湧水トンネル、高森峠千本桜、月廻り公園からの眺め、風鎮祭（高森にわか）、高森殿(どん)の杉、高森田楽、高森温泉館、草部吉見神社（日本三大下り宮の一つ）、うそぐいの滝など

高森町は熊本県の最東端に位置し、東部は宮崎県、東北部は大分県に隣接しています。阿蘇五岳のひとつ根子岳の南麓に広がる、自然の安らぎあふれる町で、南阿蘇の奥座敷とも呼ばれています。

今回は、高森町の国保の状況や特定健診の取り組みなどについて、健康推進課の野中裕美子課長補佐と、同課国民健康保険係の津留大輔係長にお話を伺いました。

特定健診受診率は 50% 台で推移、目標（60%）達成に向けて

—前回の「保険者を訪ねて」では熊本地震で被害の大きかった益城町を取り上げましたが、高森町はいかがでしたか？

（津留係長）電気や水道などが止まって、1 週間程度は庁舎が避難所になりましたが、ライフラインが比較的早く復旧し、国保の業務も特に混乱なく通常に戻りました。

（野中課長補佐）地震発生は 4 月中旬でしたが、6 月から予定していた特定健診も、4 月、5 月で準備して予定どおり実施することができました。

—特定健診の話が出ましたので、そこからお話を聞かせてください。

（野中補佐）毎年 5 月の連休明けころから、特定健診のお知らせを他の検診等の分と併せて郵送します。事前の申し込みは不要で、受診希望者はお知らせに同封の受診票を持って、直接健診会場に行ってください。集団健診は健診機関に委託して、6 月と 7 月下旬から 8 月にかけて 2 回実施し、追加健診を 10 月に実施しています。追加健診でも受診できなかった人は町内や阿蘇郡内、大津町の契約医療機関で個別健診を受けることができます。

—受診率はいかがですか？

（野中補佐）少しずつ上がっていて、ここ3年くらいは50%台を維持していますが、目標の60%にはなかなか届きません。「病院にかかっているから、健診は受けていい」という人も多いので、治療中で特定健診に必要なデータがそろっている人については、データ提供してもらえよう医療機関にお願いしています。

（津留係長）町内の医療機関の先生方と年1回会議を開いており、今年度の会議の中でデータ提供をお願いしたら、理解していただいて契約までこぎつけました。今、未受診者に郵送で個別健診の受診勧奨をしているところです。個別健診を受けにかかりつけ医に行かれたとき、データがそろっていれば特定健診データとして提供していただくし、なければ必要な検査を受けていただくこととなります。

—医療機関との連携にも力を入れていらっしゃるんですね。

（野中補佐）医療機関から、なぜ特定健診を受診しないといけないかわかりにくいと言われるので、会議でていねいに説明しました。会議を30年位前から継続しているという土台があるので、連携はうまくいっていると思います。

また、阿蘇圏域の市町村と毎年合同で学習会を開いているのですが、今年度は初めて、阿蘇南部町村（西原村・南阿蘇村）と合同で開きました。慢性腎臓病（CKD）の専門医を招いての学習会で、町内のかかりつけ医や看護師などにも来ていただき、事例を通して町のCKDの実態や課題を先生方と共有できました。

—国保担当者と保健師との連携はいかがでしょう？

（津留係長）受診勧奨対象者を保健師がピックアップして、その名簿を国保係がもらって勧奨通知を送り、住民から問い合わせがあれば保健師が説明するというように連携して取り組んでいます。

（野中補佐）以前は、国保係は税務課、保健師は保健福祉課というふうに別の課でしたが、保健事業に連携して取り組むということで、今は健康推進課の中に国保係と、保健師など専門職がいる健康推進係、それに介護保険係が置かれています。

タブレット端末と健康指導専用公用車を購入、訪問・保健指導に活用

—健診後の保健指導についてはいかがですか？

（野中補佐）健診結果を返すときに説明会を開いて、個別面接しています。説明して返したいけれど説明会に来ていない人には訪問しています。また、今年度、タブレット端末を6台購入して、保健指導に活用しています。これまで使用してきた紙の教材や資料などのデータを端末に取り込んでいるので、必要なときに必要なものを画面に表示して見ることができます。特に動画は、住民さんに理解してもらいやすいと思います。

—タブレット端末の財源はどうされたのですか？

（津留係長）3台は国保ヘルスアップ事業の補助金で、あとの3台はふるさと納税制度による寄付金です。ちなみに、健康指導専用の公用車2台HAPPY号とLUCKY号（3ページ写真参照）も今年度、ふるさと納税の寄付金で購入しました。

（野中補佐）町の医療費や介護保険費が上がってきている現状の中で、それらを抑えるために必要な経費ということで財政面での理解が得られたと思います。

（津留係長）それまで保健師が訪問に行くときは町の公用車を利用して、他の課と共用なので予約を取るのも難しく、行きたいときに行けませんでした。HAPPY号とLUCKY号は健康指導専用車なので家庭訪問などにフルに活用しています。



2次精密検査を活用して早期介入、重症化予防

—2次精密検査の取り組みについて教えてください。

(野中補佐) 健診結果から糖尿病などが重症化する前の人を抽出して、耐糖能検査や頸動脈エコー、微量アルブミンなどの検査を受けてもらいます。その結果を説明すると今の自分の体の状態や、何が影響してそうなっているのか、このままでは将来どうなるかをわかってもらえるので、生活改善に向けた意識付けがしやすくなります。食事や運動など自分に合った方法で生活改善に取り組んでいただき、希望者には教室も開催しています。

—取り組みの効果はいかがですか？

(野中補佐) 半年後に再度測定して評価しますが、昨年度は、HbA1c に関しては 100%改善していて、大きな効果が見られました。肝機能や LDL コレステロールではまだ増減がありました。

また、こういう検査をすることで、保健師にとっても、体格や年齢、検査データなどから、この人は今インスリンがどういう状態で、将来はどうなっていくのかなど、ある程度予想ができるようになりました。

「収納対策プロジェクトチーム」で保険税収納率向上を図る

—次に、保険税収納率向上のための取り組みについて教えてください。

(津留係長) 平成 28 年度の国保税収納率は、現年分 94% で、前年度に比べて上がっています。滞納者には短期保険証発行時に納付の約束をしてもらうのですが、なかなか納付につながらないことも多いです。収納率向上の取り組みとしては、税務課と合同で、税の科目を超えて「収納対策プロジェクトチーム」による徴収活動を行っています。メンバーが 3~4 人ずつの 9 班に分かれて、毎月 1 回、高額滞納者名簿を基に電話催告や夜間の家庭訪問などを行っています。それに合わせて国保係でも夜間収納窓口を月 1 回開いています。

また、滞納者に対する差し押さえや、差し押さえ物品の公売会も行っています。ちょうど明日、町民体育館で公売会を開く予定です。インターネット公売なども今後取り組むことにしています。

—他の市町村と合同での取り組みもあるのですか？

(津留係長) 税務課が主体となって阿蘇郡内の全市町村で徴収協定を結んでいて、合同で家宅搜索や差し押さえなどを行っています。明日の公売会にも他の市町村から手伝いに来られます。また、税に関する勉強会を頻繁に開くなど、情報交換もしています。

—取り組みの効果はいかがですか？

(津留係長) 収納率に関しては何とか現状維持しているというところです。新たな滞納者、ケースが次々出てきますので、軽度なうちに取り組んでいくことが重要と考えています。今年度まで国保係が担当してきた国民健康保険税の賦課・収納業務については、来年度からは税務課に移って、滞納整理を強化していく予定です。

住民への制度周知に光ケーブルテレビを活用

—住民に対する国保制度周知などで工夫されていることがありますか？

(津留係長) 町では光ケーブルテレビ「たかもりポイントチャンネル (TPC)」を導入していて、テレビさえあれば見ることができるので、当課では国保制度の周知や特定健診のお知らせなどに活用しています。

—「たかもりポイントチャンネル」について教えてください。

(津留係長) 庁舎 2 階にスタジオがあり、職員 5 人が配属されて、“番組”を制作・放送しています。放送は朝 6 時から通常は深夜 4 時まで放送しています。番組は通常 1 週間単位で入れ替えます。

—広報の効果はいかがですか？

(津留係長) 先日は、国保の届け出など制度について周知する内容を TPC で繰り返し放送したところ、国保と職域保険に二重払いしていたり、逆に無保険状態になっているような人が「テレビで見てあわてて来た」と何人も届け出に来られました。国保制度は複雑で難しく、住民さんからもよく「わからない」と言われます。広報の重要性を感じました。

平成 30 年度からの医療保険制度改革についても、4 回に分けて告知番組を制作し、現在放送して周知を図っているところです。



たかもりポイントチャンネルで放送している、平成 30 年度からの医療保険制度改革についての広報番組の一場面

受診率の目標達成と重症化予防に力を入れて取り組んでいく

—今後、どのようなことに力を入れていけますか？

(津留係長) 国保係としては、やはり特定健診受診率の目標 60% 達成をめざして取り組んでいきたいと思えます。今年度、データ提供など医療機関の協力も得られることになったので、上がっていくのではないかと期待しているところです。

(野中補佐) 腎機能が落ちてきている人が増えているので、改善して重症化しないよう取り組んでいきたいと思えます。



(上) 健康推進課の職員
(左) 職場風景